

じょう ほん じ ちょう
上 品 寺 町

有名シャカシャカ祭り

上品（じょうほん）とは、仏教で極楽浄土に往生できる人たちのことをいい、別にいう九品（くほん）と同じ意味です。

東大寺・大仏殿の灯明料を寄進する田が、大和国十市郡の「字者上法院」にあったという記録が、弘安二（一二七九）年の東大寺文書に残っています。

時代が下った戦国時代の天文五（一五三六）年に「十市郷内の興福寺領・上品寺庄」から、春日神社若宮祭礼費用などが上納されたの記録も残っています。上法院や上品寺庄が現在の上品寺町のことと考えられ、お寺やお宮さんに貴い浄財を寄進する心掛け良し人の「極楽往生間違いなし」と、この町名が生まれたのでしょうか――。

古くから続く同町の「シャカシャカ祭り」は、県内でいちばん有名な「ノガミ（農神）祭り」です。いまも毎年の六月五日に必ず、町を挙げて行われています。

わらで作った長さ五メートルほどのジャ（蛇）を町の子どもたちが担いで町中を練り歩き、最後に町外れの太木に巻き付けお神酒などを供えて一年の豊作を祈ります。むかし村人にいたずらを働き退治された、大蛇の霊を供養する祭りだともいわれています。